

Ⅳ おわりに

半自動溶接技能クリニックにおいて、自主研修が、本来の意味での自主研修になっておらず、やむをえず同じ研修内容を、受講者全員が一斉に行っている。そこで、どのようにすれば、受講者が主体的に実験を行うという本来の意味での自主研修が成立するのかを探るため、自主研修において、ビデオ教材を用いた実験方式を取り入れた。

本研究の結果概要は次の通りである。

1. ビデオ教材を用いた自主研修での実験を、受講者はどのように受けとめているか。

これに関する検討の結果、次のことが言えよう。

自主研修において、ビデオ教材を用いた実験方式の研修を行うことは、受講者にとって有効な方法である。それは、実験手順などを、具体的な動きのある映像で見ることによる、わかりやすさがあるからである。ただし、ビデオ教材の弱点をサポートするために、補助教材を併せて用いた方がよい場合もある。

2. 内容をわかりやすくするために、ビデオの特色を生かした画面を入れるよう工夫したが、その画面が、制作者の意図通りの効果をあげたか。

これについての検討結果は、次の通りである。

- (1) 工夫した画面のうち、アップによる部分の拡大と、実物を略図化した動くモデル図に、有効性が認められた。
- (2) ビデオに対して、好意的な人と、そうでない人が存在する。
- (3) グラフの意味を説明する動くモデル図の画面は、制作意図が通じにくい。

これらの知見を考慮して、自主研修のこのビデオ教材を修正すれば、よりよいものになると思われる。

今後の作業として、本研究の結果をふまえて、次の自主研修テーマをビデオ化したいと考えている。

- ⑧ トーチ角度・トーチねらい位置のビード形状に及ぼす影響について
- ⑨ ワイヤ突出し長さの影響について

⑪ ケーブル長さのアーキ安定性について

⑬ コンジットケーブルのアーキ安定性について

これらのビデオ化を行うことにより、受講者が見よう見まねで身につけてきた技能に対する理論的裏づけを与えるという目的の自主研修は、よりうまく行われるであろう。

今後の研究課題として、次の2点をあげる。

- (1) 今回、制作したビデオ教材におけるビデオの特色を生かした画面上の工夫点が、受講者に通じる場合と通じない場合があった。それはなぜか。工夫点の意図が通じない理由を明らかにすることによって、一般に言われている、ビデオの特長を生かした画面の有効性を再吟味したい。
- (2) ビデオを用いた実験方式の研修に対して、好意的な者と好意的でない者がいた。なぜ、ビデオを用いた授業に対して好意を持たないのか。この点を明らかにしたい。さらに、ビデオを好む群と、好まない群のそれぞれに適した指導法を検討したい。

最後に、本報告に用いたビデオ教材を制作するため、協力して下さった埼玉技能開発センター、溶接科の神田茂雄先生、細井重雄先生、秋本憲二先生、小峯金蔵先生、当センター、吉橋龍夫研究室長、高橋辰栄研究員、村上武史研究員に心よりお礼申し上げます。